

高温対策特集号

令和8年7月

「こおりやまの米」通信



GOOD RICE DAY
毎月8日は
こおりやま「万葉の日」



編集：郡山市

JA 福島さくら郡山統括センター

(Tel. 024-921-0503)

NOSAI 福島中央支所

(Tel. 024-933-3307)

県中農林事務所農業振興普及部

(Tel. 024-935-1310)

発行：郡山市農作物生産対策協議会

(郡山市農業生産流通課 Tel. 024-924-3761)

出穂後 20 日間の日平均気温が 26℃以上になると、光合成能力の低下等により白未熟粒の発生が増加します。また、出穂後 10 日間の日最高気温の平均が 33℃を超えると胴割粒が増加します。

今年の夏は気温が高く経過することが予想されていますので、適切な管理により玄米品質の維持・向上に努めてください。



1 水管理

生育ステージに応じた適切な水管理を心がけてください。

【基本】開花後は根の活力維持を目的に間断かんがいを継続します。開花後 25 日までは米粒が肥大する時期であり、土壌水分が不足しないように注意し、落水は出穂後 30 日を目安に行います。

【高温時】出穂期以降、高温が予想される場合は、飽水（ひたひた水）管理で夜間の地温や水温を下げてください。なお、用水が十分に確保されている場合は間断かん水や夜間落水・昼間湛水管理を行い、地温や稲体温度の上昇を抑えてください。

2 出穂期追肥

高温時の出穂期追肥（実肥）により整粒歩合が向上し、白未熟粒の発生割合が低下します。基肥一発肥料を施用した場合でも、極端に葉色が淡くなっている場合は、出穂直前に窒素成分で 1 kg/10a を上限に施用します。なお、実肥は食味低下の要因ともなりますので、生育に応じて実施の判断をしてください。

【参考】出穂期追肥の目安（コシヒカリ） ※出穂期：全穂の 40～50%が出穂した日

栽培体系		判断時期・葉色 (SPAD 値) のめやす	施肥時期・施肥窒素量のめやす	用いる肥料
分施	一般栽培 (化学肥料体系)	出穂期3日前・葉色 31 以下	出穂期3日前・1kg/10a	化学肥料
	特別栽培 (減化学肥料栽培)	出穂期6日前・葉色 33 以下	出穂期3日前・1kg/10a	有機 50%肥料
			出穂期6～3日前・1kg/10a	有機 100%肥料
一発基肥	一般栽培 (化学肥料体系)	出穂期までの葉色 32～33 を下回ると予想されるとき	出穂期 10 日前・1kg/10a	化学肥料
	特別栽培 (減化学肥料栽培)	出穂期 10 日前頃・葉色 30 以下	出穂期 10～5 日前・2kg/10a	有機 100%肥料

出典：新潟農業普及指導センター 2024 年 6 月 “稲作技術情報 No. 4 異常気象を意識したコンパクトで丈夫な稲づくり 高温時は出穂 3 日前までに確実な追肥の実施！”

(新潟県ホームページ <https://www.pref.niigata.lg.jp/uploaded/attachment/410427.pdf>)